3. 堀野地域

3-1 地域の特徴と位置づけ

地域の特徴

◆医療・福祉施設や商業施設など複数の都市機能が立地

○二戸広域の中核的な医療を担う県立二戸病院をはじめ、高等看護学校や社会福祉協議会、民間の医療・福祉施設が立地するほか、二戸ショッピングタウンを中心とした商業施設が集積していることから、市民の生活に必要な都市機能が充実したエリアとなっています。

◆生活利便性が高く良好な居住環境を形成

○医療・福祉、商業機能などの都市機能のほか、保育所や小学校、公園などの機能、隣接した上田面地区に、消防署や警察署等の行政機能が立地し、子育て環境に優れ生活安全面でも安心感が高く、まとまった平地もあることから、良好な居住環境を形成する地域となっています。

当該地域の位置づけ

○市内及び周辺市町村全体の暮らしを支える「広域的な医療・福祉・商業の拠点」として位置づけます。

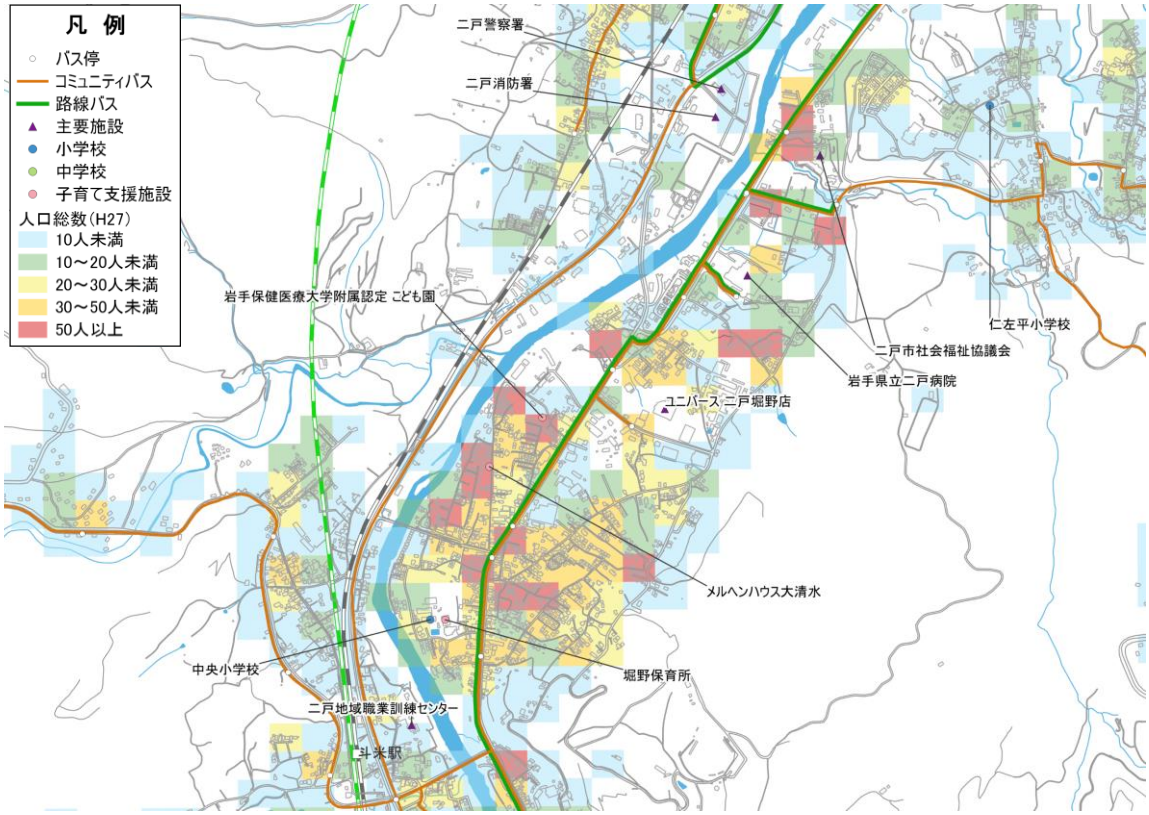

図 地域の現況図

3-2 地域の将来像・地域別構想図

地域の将来像

◆市内・周辺市町村全体の暮らしを支える中核的な拠点となる地域

○商業・医療・福祉をはじめとする既存の都市機能の維持・誘導を図るとともに、公共交通網を適切に維持・確保していくことで、市民の利便性を向上させます。また、この広域的な移動利便性を高め、市内・周辺市町村全体の暮らしを支える中核的な拠点づくりを目指します。

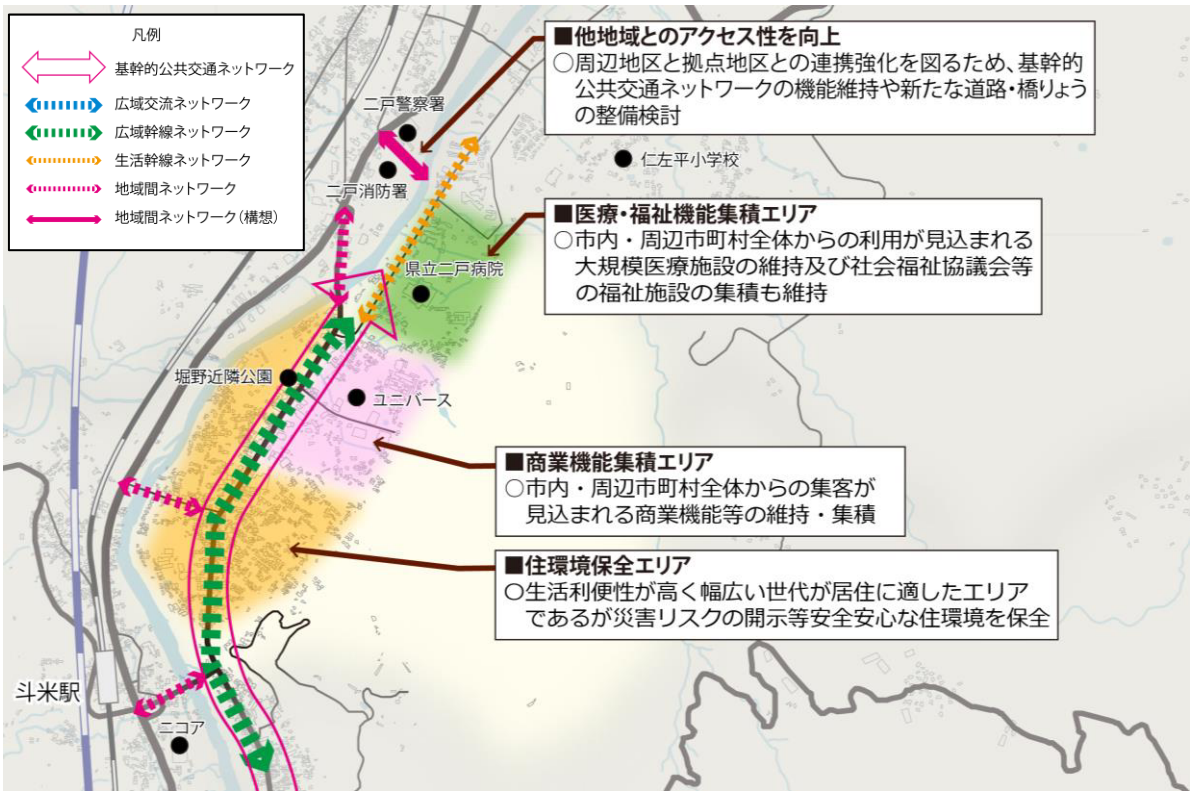

図 将来都市構造図

3-3 取り組みを進める上での課題

■医療・福祉・商業等の都市機能の維持を図ることが必要

県立二戸病院は、二戸広域全体の中核的な医療を担う医療施設であり、その周辺には民間の医療・福祉施設の立地が進んでいます。また、県道二戸一戸線及び市道長地大谷地線沿線には大規模な商業施設が集積するなど医療・福祉・商業機能の広域的なサービス拠点として既存の機能の維持を図る必要があります。

■既存施設等の立地状況に応じた適切な土地利用が必要

本地域は、広い範囲が工業地域の用途指定となっていますが、指定以降商業施設等が多く立地するなど、一部用途指定と現状の立地状況がそぐわなくなってきています。時代の変化に伴う現状の施設の立地状況等を勘案しながら、用途指定の見直しも含め、適切な土地利用を進めることが必要です。

■安全に暮らすことができる住環境の整備、道路・歩道空間の確保

本地域は、交通量が多い一方で、幹線道路の後背地にある狭あいな道路の解消などが課題となっています。

医療・福祉施設が集積し、商業施設も充実するなど生活利便性が高く、市内で人口が増加傾向にある数少ない地域でもあり、危険箇所の抽出、隅切りや待避所の対策を検討するなど、人と車が共存できる安全な道路・歩道空間の確保に努めることが必要です。

■まちとまちを繋ぐ道路・公共交通ネットワークの構築

本地域は医療・福祉、商業拠点として中核的な都市機能を担っており、隣接する福岡地域や斗米地域、仁左平地域、金田一地域などとを繋ぐ道路・公共交通ネットワークを構築し、都市の利便性を向上させていくことが重要です。

■浸水被害及び土砂災害リスクに対して情報開示や適切な対策が必要

馬淵川沿いの下夕川原地区や傾斜地に隣接する大畑・小清水地区では、河川の氾濫や土砂災害リスクの高い地域が存在します。

県の河川改修事業や急傾斜地事業を実施しながら、災害リスクが高い地区に対する情報開示や避難計画の見直し等、都市防災の強化に努めることが必要です。

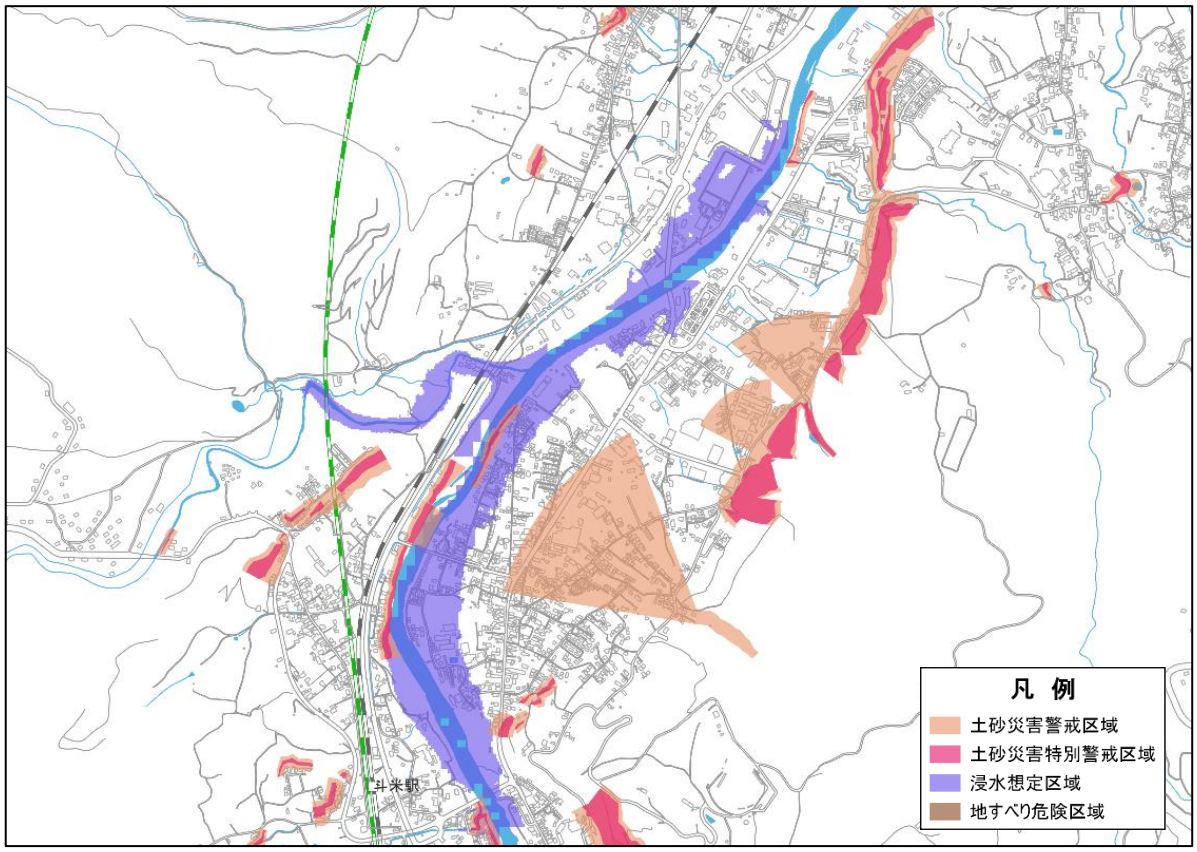

図 災害の危険性が高い範囲

3-4 取り組みの方向性

取り組みの方向性

◆商業・医療・福祉機能のサービス拠点として市内・周辺市町村の活発な交流を促進

○商業・医療・福祉機能のサービス拠点として、市内・周辺市町村全体の暮らしを支えるとともに、活発な交流を促進するため、これらの都市機能の維持・誘導を図ります。

◆地域間ネットワークの構築と市街地の一体性の強化

○本地域の拠点性を維持・向上させるため、市街地周辺及び周辺市町村からのアクセス利便性の維持・向上を図ります。

○また、生活利便性が高く人口が増加傾向にあることから、道路改良に際し人と車が共存できる安全な道路・歩道空間の確保を進めます。

○本地域と上田面地区の連絡道路の整備に加え、基幹的公共交通ネットワークの機能維持や、必要に応じて新たな技術による公共交通ネットワークについても検討を行います。

◆既存施設の立地状況等を踏まえた適切な土地利用

○本地域の既存施設の立地状況は、当初の想定から変化しているため、現状の施設の立地状況等も勘案しながら、用途指定の見直しを含め、適切な土地利用を促進します。

◆災害リスクの高い箇所に対する安全対策の検討

○地域内の浸水・土砂災害リスクを可視化し、災害リスクの情報開示、避難計画の見直し等、都市防災の強化を推進します。

4. 金田一地域

4-1 地域の特徴と位置づけ

地域の特徴

◆幹線道路沿いに市街地を形成、新たな都市機能が集積

○本地域は３本の幹線道路が南北に走り、その沿道と IGR いわて銀河鉄道『金田一温泉駅』を中心にまちなみが形成されてきました。国道４号バイパス南側の上田面地区に、消防署や警察署等の行政機能や福祉施設が立地するなど、新たな都市機能が集積する地域となっています。

◆地域の「宝」を核とした観光振興の拠点地域

○金田一温泉周辺は、古くから観光拠点として位置づけられ、地域資源を活かした滞在型の観光地づくりを進めてきました。

○まとまった農地が多く存在し、りんごや米など多くの特産品を生産しているほか、座敷わらしや化石、馬淵川の豊かな水と緑が見せる景観など多くの地域資源を有しています。

当該地域の位置づけ

○温泉と地域資源が融合した「観光振興と地域価値の向上につなげるとともに、新たな民間投資を呼び込む観光交流拠点」として位置づけます。

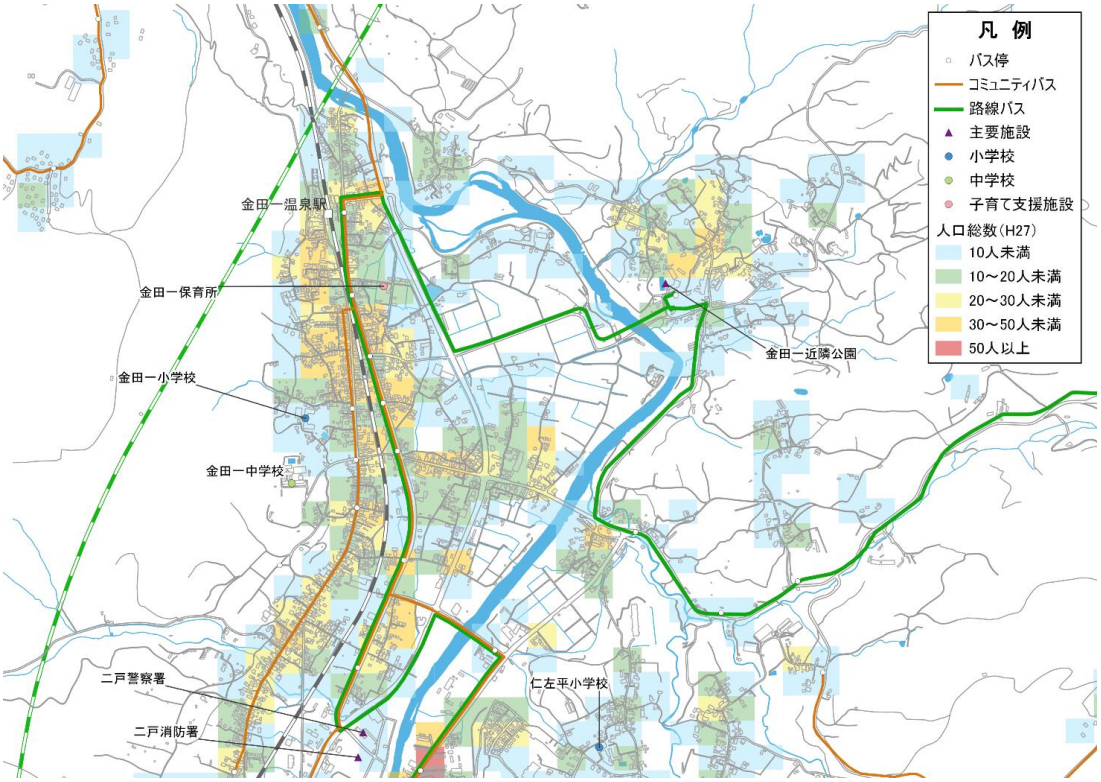

図 地域の現況図

4-2 地域の将来像・地域別構想図

地域の将来像

◆地域の「宝」を生かした観光振興と地域価値の向上を目指す地域

○地域の「宝」を生かし、他地域の観光資源とも連携しながら、地域価値の向上を目指すとともに、新たな民間投資を呼び込む地域を目指します。

◆温泉と地域資源の融合による公民連携まちづくり

○温泉資源と果樹や酒米、地酒などの地域資源とを融合させ、風土や歴史、文化、背景を地域の物語として伝えながら、二戸ならではの地域の「宝」を味わっていただく「産業体験型観光」を地域と一体になり進めていくことで、満足度の高い滞在型の観光地を目指します。

◆幹線道路や公共交通網の整備された生活利便性の高い地域

○国道４号バイパス等の車両交通の利便性の高さと IGR いわて銀河鉄道金田一温泉駅の立地を活かすとともに、拠点地区へのアクセス性を維持・向上させることで、さらなる生活利便性の高い地域を目指します。

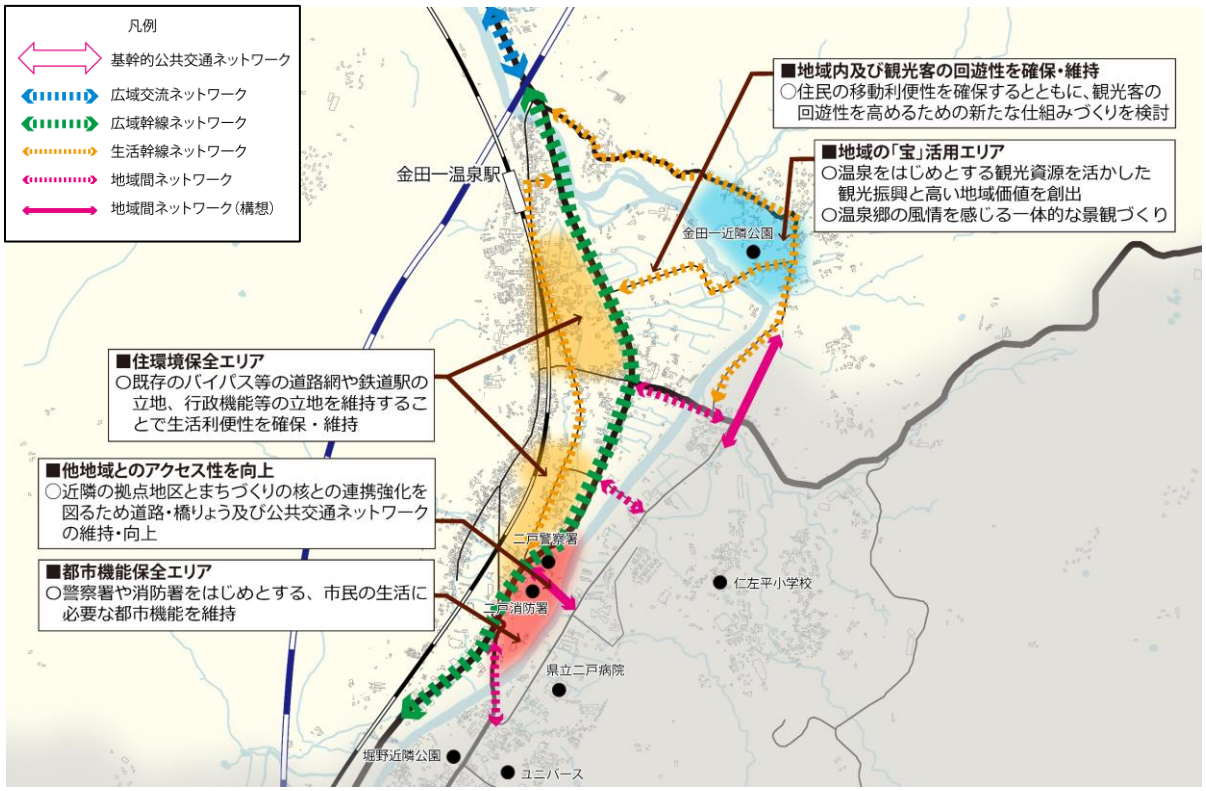

図 将来都市構造図

4-3 取り組みを進める上での課題

■温泉と地域資源の融合によるさらなる観光振興の取り組みが必要

多様な観光ニーズに対応し、稼ぐ地域づくり・産業を魅せる観光を推進する必要があります。

そのためには、温泉事業者をはじめ農家や商工業者と連携した温泉資源と地域資源の融合による、さらなる観光振興の取り組みを進める必要があります。

また、公民連携事業で新たに整備されるカダルテラス金田一と連携し、体験型観光などの本格実施を検討する必要があります。

■金田一温泉郷ならではの景観形成を進めることが必要

金田一温泉地区の景観保全については、旅館組合や地域団体と連携して温泉地らしい景観形成に努め、ホタルの生育環境の保全や温泉郷内を歩いて回るマップの作成なども進めてきました。

また、国民保養温泉地の指定を受け、馬淵川の水と緑の空間を感じられるくつろぎ広場を整備し、訪れた観光客や市民に散策空間を提供してきました。

Park-PFI で整備する金田一近隣公園の改修や、くつろぎ広場の新しい利用形態の検討を含め、金田一温泉郷ならではの景観形成と新たな楽しみが生まれる交流空間を、地域と連携して検討していくことが必要です。

■温泉郷までの新たな交通手段の検討及び温泉郷内の狭あい道路の解消が必要

これまで観光客の金田一温泉郷へのアクセス手段は、公共交通機関もしくは宿泊施設の送迎を利用してきました。観光ニーズの多様化に合わせ、駅から温泉郷までの地域資源を紹介する立ち寄り箇所やルートを案内するとともに、自転車や新たな交通手段を活用した温泉郷までの二次交通や、温泉郷内を回遊する交通システムを検討する必要があります。

また、温泉郷内の県道の一部には狭あいな区間があり、大型観光バスが進入できないなど、交通上支障があることから、観光地としての魅力向上及び地域住民の生活利便性の確保のため、解決する必要があります。

■継続的な情報発信や案内、広報等の環境整備が必要

これまで、座敷わらしをはじめとするコンテンツが、テレビや雑誌などのメディアに取り上げられてきたことにより、金田一温泉郷は一定の知名度を得てきました。

しかし、インターネット等を活用した発信やマーケティングが弱いことから、魅力を十分に発信できていない現状にあります。また、誘導看板等の老朽化・不足等により金田一温泉郷までの誘導が不足している状況もあることから、統一的な誘導看板の整備を検討する必要があります。

これらを改善し、地域の「宝」を広く発信するために、各種メディアを活用した継続的な情報発信体制を確立するとともに、新たな技術を活用した対策や、観光客が気持ちよく散策できる環境整備を進める必要があります。

■地域の「宝」を保全しながら住みやすさを考慮した現状の都市機能を維持することが必要

これまで本地域では、農業振興との調整を図りながら、住居、商業、工業地域を適切に配置し、計画的な市街化を進めてきました。

これからも、道路沿いに広がる田園風景やりんご畑といった地域の「宝」を保全しながら、子育てに必要な機能等を適切に維持するなど住みやすさも考慮することにより、若い世代も安心・快適に暮らし続けられる環境を維持することが必要です。

■浸水被害及び土砂災害リスクに対して情報開示や適切な対策が必要

馬淵川沿いの大釜・小林地区や山間部に隣接する水梨・権現地区などでは、河川の氾濫や土砂災害リスクが高い地域が存在します。

県の河川改修事業や急傾斜地事業と連携しながら、災害リスクが高い地区に対して、情報開示や避難計画の見直し等、都市防災の強化に努めることが必要です。

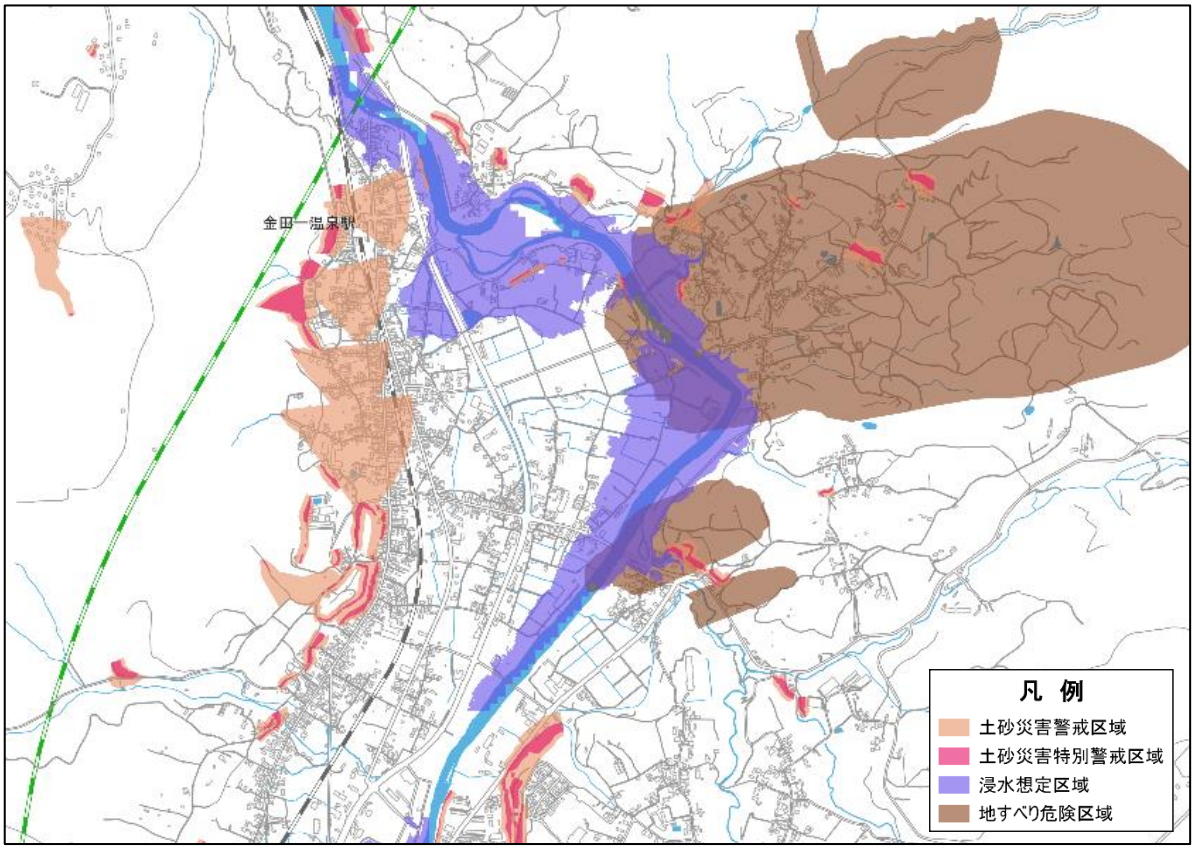

図 災害の危険性が高い範囲

4-4 取り組みの方向性

取り組みの方向性

◆金田一温泉郷ならではの景観形成と地域資源の融合による観光振興

○温泉旅館と農地、民家が近接し、人々の暮らしの中に根差した金田一温泉郷ならではの景観と自然空間を保全します。これらをさらに活用しながら、新たな楽しみが生まれる交流空間を地域と連携して形成するとともに、温泉と地域資源の融合によるさらなる観光振興の取り組みを進めます。

○金田一温泉郷ならではの、統一的な誘導看板及び案内看板の整備を各旅館や旅館組合、観光協会と連携して進めます。また、各種メディアを活用した情報発信や広報資料についても、継続的な発信体制の構築に努めます。

◆観光客の移動利便性の確保及び他地域との連携を強化

○住民の生活利便性と金田一温泉を訪れる市内外からの観光客の移動利便性を確保するため、地域間やまちづくりの核を繋ぐネットワークの整備や、公共交通ネットワークの維持・向上を図ります。また、堀野地区への連絡道路の整備や、必要に応じて新たな技術による公共交通ネットワークについても検討を行います。

○小学校や保育所、公園や商業施設など子育てに必要な機能等を適切に維持し、市街地としての利便性を確保することにより、若い世代も快適に暮らし続けられる環境を維持します。

◆災害リスクの高い箇所に対する安全対策の検討

○地域内の浸水・土砂災害リスクを可視化し、災害リスクの情報開示、避難計画の見直し等、都市防災の強化を推進します。